



礼文島の港

## がんは、怖くない。治し方、教えます。

前々号では、末期ガンと診断された百姓仲間（仮にNさん呼びます）の病状を中途半端に紹介しました。が、じつは本人が落ち込んでいたのは1ヶ月ほどにしすぎませんでした。どうということかという・・・

紙面の関係ではしよりますが、一例として、インターネットの「健康案内人」というページからの引用を下記に転載しました。

Nさんが、ネットでさまざまな情報を検索するなかで出会ったのが「阿保理論」でした。ガンは、人間が本来もっている免疫力によってこそ治すことができるのであり、放射線や手術や薬品はかえって有害であるという大胆な学説です。

Nさんは、新潟大学の研究室に電話をかけて、阿保教授本人とも直接話をしたそうです。さらに偶然、早朝に車を運転していて、NHKラジオで一週間にわたり阿保先生が持論を展開する番組も聴きました。

近代医学では余命2年と診断されてしまったNさんですが、「阿保理論」を知って以降、自分は治ると信じて、生活面や食生活などで、さまざまな見直しを実践しています。

いっぽうで、医師にも説明して、病院で示されたホルモン剤による治療はすでに打ち切っています。

そして、体を温めることが免疫力を高めることにつながるというお墨付きをたてに、温泉三昧の闘病生

写真は北海道の最北限、礼文島の港。知る人ぞ知る「桃岩荘ユースホステル」の見送り風景です。船が見えなくなるまで手を振ってくれます。なお、すぐに正解が寄せられましたが、前々号「北の国から」は同ユースの出迎いの風景でした。若い人にすすめたい熱い熱い場ではあります。

活?を楽しみつつ、百姓仕事のほうも、炎天下でアゼ草刈りをこなすなど、元気いっぱいです。

というわけで、病人扱いは無用。もしガンが心配な方がいたら、ぜひ、聞きかじった理論と元気を分けてもらってください。

### ガンを治す究極の四カ条

ある時、夢に親父がでてきました。彼は、平成2年に肺ガンで亡くなっています。

夢の中の父は、「北海道に旅行に行く」なんてはしゃいでる。それで、私に「一緒につきあえ」って言うんです。私が、「仕事だからダメだ」と断ると、「仕事ばかりやって、なんの人生だ」なーんて、私に説教をする。

もし、彼がこういう人だったら、彼はガンにならなかった。非常に頑張り屋さんだから、ストレスを発散できず、息抜きも出来ないから、ガンになった。

ガン患者さんに、なぜガンになるかの説明をする時、よく魚の目と靴の話をしします。魚の目は、靴から受けるストレスが原因でなります。つまり、窮屈な靴を履いているから、強い刺激を受けてそれが長く続くから、魚の目になる。ガン細胞は、魚の目みたいなものです。切っても、また出てきます。だから、靴を変えなければなりません。

靴は、生活環境全体を意味していますから、転地、転職

を視野にいれた生活環境全体を変えないと、ガンはなりません。

ガンは、怖くありません。ウイルスのように空気に漂って感染したり、細菌が体内に入ると、ガンにはなりません。ガン細胞は、自分の細胞が変化したものです。その、変化のした細胞は、ガンになった人自身が原因を作っています。原因を取り除いてやれば、ガン細胞は自然となくなります。

#### <ガンを治す究極の四カ条>

新潟大学大学院医学部教授阿保徹先生は、著書でこう言い切っておられます。

- 1、生活パターンを見直す
  - 2、ガンへの恐怖から逃れる
  - 3、免疫を抑制するような治療を受けない。受けてる場合は止める。
  - 4、積極的に副交感神経を刺激する。
- 以上を実行すれば、リンパ球の数や比率が上がります。そうすれば、ガンは自然退縮を起こしはじめます。

(参考文献:「免疫革命」阿保徹、講談社インターナショナル)